Brown Bag Seminar No. 244

2026
8.26(水) 12:10 ~ 12:50

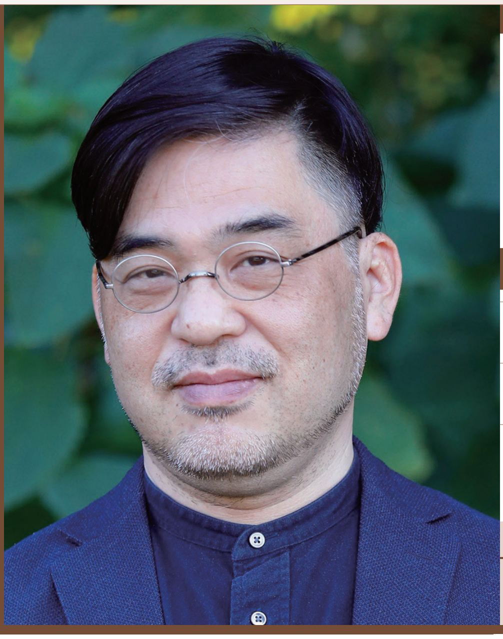
12:10-12:15	◆発表者紹介
12:15-12:40	◆プレゼン
12:40-12:50	◆質疑応答

オンライン (Zoom)
登録はこちら

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_b3tnxGMjQ6eAQQOo0LUPHw

【技術支援】九州大学 Q-AOS

夏休み明けに子どもに起こること



Key Words

夏休み明け
子ども　自死
不登校

佐々木 玲仁 准教授
九州大学 人間環境学研究院 人間科学部門

九州大学大学院人間環境学研究院人臨床心理学講座准教授。博士（教育学）。臨床心理士，公認心理師。京都文教大学専任講師を経て，2009 年より九州大学に着任。専門は臨床心理学を専門で，風景構成法などの描画法、臨床心理学研究法，遠隔心理支援，子どもの居場所研究・実践に取り組んでいる。子どもの居場所の実践として糸島で子どもの居場所を運営して 7 年目となる。最近は SNS による発信も多数行っており，臨床心理学の内容や子どもの居場所の必要性などについて広く伝えている。

夏休み明けに多くの子どもが自死を選ぶ，というのはよく知られた事実です。この理由を論理的に考えれば，学校という場所が「開いたら死にたくなるような場所」であるから，ということは明白です。ではなぜわれわれ大人は，あたりまえのようにその子どもが死にたくなるような場所を開けてしまうのでしょうか。そしてなぜそのような場所に子どもが行くのがあたりまえだと思ってしまうのでしょうか。また，学校をこのように捉えれば，「不登校」は非常に合理的な選択であるということは明らかです。本講演ではこの前提のもと，子どもが死を選ばなくてよいようにするためには大人はどう考えどう行動しなければならないかについて論じていきます。